

JSS 海外安全速報

ラホール中心部で自爆テロ、100人以上死傷

《パキスタン》

1. 州議会議事堂前での抗議デモを狙ったテロ

2月13日(月)午後6時10分頃、パンジャブ州の州都ラホール中心部の州議会議事堂前のモール・ロード沿いで自爆テロが発生し、現地報道によると少なくとも14人が死亡、100人以上が負傷したが重傷者が多いため、死者数はさらに増える可能性がある。

当時、州議会議事堂前では地元の薬剤師や製薬会社などの関係者約400人が集結して薬事法の改正に反対する抗議デモを行っており、警備のため多数の警察官が配置されていた。犯人は現場にバイクで乗り付け、自爆ベストを起爆したものと見られる。

事件後、イスラム武装勢力「パキスタン・タリバン運動(TTP)」の分派「ジャマート・ウル・アハラル(JuA)」のスポークスマンが現地メディアを通じて犯行声明を発した。

JuAはTTPグループの中でも最も活動が活発で、自爆テロを得意としており、昨年3月27日(日)に同市南西部のグルシャン・イクバル公園でイースターを祝うキリスト教徒に対する自爆テロ(71人死亡、300人以上負傷)を敢行したのをはじめ、昨年だけでも5件の大規模テロに関与している(JSSマンスリーレポート1月号参照)。

具体的な犯行声明は出ていないが、シャリフ首相のお膝元であるラホールの中心部の議会議事堂前での自爆テロは、警察狙いの犯行であるとともに、国軍による同国北西部での大規模掃討作戦や、テロリストの死刑執行に対する報復の意図も窺える。

本件との関係は不明であるが、去る1月25日にはパンジャブ州当局が「ラホールをはじめとする主要都市でテロ攻撃の危険性が高まっている」とラホールの在外公館などに通知していた。同情報に基づき、同市では、治安当局が警戒を高めていた(「JSSウィークリー・アジアレポート」2月2日号参照)。

なお、本件のように多数の犠牲者を伴う大規模テロが発生した後は、住民らによる大規模な抗議行動や追悼の集会・行進などが行われるが、そうした行事がさらなるテロの標的になる場合もあるので注意を要する。

2. 駐在員・出張者の留意事項

- ① 緊急連絡先の登録された国際携帯電話を常時携帯し、現地拠点や受入れ先、現地日本大使館、本社等と速やかに連絡を取れるようにしておく。
- ② 常に自身の所在を明確にしておき、単独・私用外出、夜間外出を極力控える。
- ③ 各宗教施設、各種イベント（とりわけ政治集会や宗教行事）、公共交通機関、政府庁舎、国軍・警察の施設や車両、葬儀の列、在外公館とその周辺などテロの可能性のある場所・地域には近づかない。
- ④ 今回のテロにより街頭警備や検問がさらに強化されているが、そうした治安部隊にも近づかない。
- ⑤ 現地出発時は利用航空機のチェックイン開始時刻に合わせて空港に到着し、速やかに諸手続きを済ませて制限区域内に入る。到着時は素早く到着ロビーを抜けて、所定の交通手段でターミナルビルを離れる。また、搭乗待合室では窓ガラスから離れた場所で待機する。現地マスメディア等を通じて現地情勢に注意し、テロ情勢の推移をフォローする。
- ⑥ 万一テロ事件等の緊急事態が発生した場合は、被害を受けなくとも、速やかに本社に安否報告を行う。
- ⑦ 外出中に集会やデモ隊などの群衆を見かけたら、直ちにその場から離れる。
- ⑧ 銃声や爆発音を耳にしたら、直ちに音と反対の安全と思われる方向へ避難する。
- ⑨ 路上や身近な場所で不審物を発見した場合は、爆発物の可能性があるため絶対に近寄らない。

以 上

本レポート内容の全部または一部の転送・転載・第三者への提供を厳禁します。